

須賀川市立博物館春季企画展「すかがわの花鳥風月」展示目録

No	作家名	作品名	制作年	出品展覧会	材質・形状	法量(本紙 cm)	備考
1	角田 馨谷	牡丹	昭和30年代		紙本着色・額装	50.0×200.0	
2	小泉 智英	夜牡丹五月	昭和55年(1980)		紙本着色・額装	48.5×103.0	寄託
3	小泉 淳作	競う花	平成4年(1992)		紙本着色・額装	75.2×117.5	
4	松尾 敏男	朝霞	平成16年(2004)		紙本着色・六曲一隻屏風	171.2×364.8	
5	須田 珙中	三つの牡丹	昭和30年代		紙本着色・額装	77.5×100.0	寄託
6	藁谷 耕人	惜春	昭和61年(1986)	鎌倉会日本画展	紙本着色・額装	45.0×51.0	
7	坂本 勇	須賀川牡丹園	平成15年(2003)		紙本木版・額装	33.0×48.0	
8	須田 珙中	牡丹図(須賀川体育館緞帳原画)	昭和36年(1961)		紙本着色・額装	31.8×60.1	
9	角田 馨谷	牡丹	昭和30年代		紙本着色・額装	30.0×25.0	個人蔵
10	角田 馨谷	あさつゆ	昭和11年(1936)	文展鑑査展	絹本着色・二曲一隻屏風	195.0×248.0	
11	菅野 梁川	山水図	大正15年(1926)		紙本墨画淡彩・二曲一双屏風	154.2×165.7	寄託
12	白雲	山水図	江戸時代		絹本墨画淡彩・双幅	66.0×22.0	寄託
13	亜欧堂田善	山水図	江戸時代		絹本墨画淡彩・双幅	44.0×43.0	寄託
14	須田 珙中	高原	昭和9年(1934)	第15回帝展	紙本着色・二曲一隻屏風	144.0×210.0	
15	須田 珙中	群鶯	昭和29年(1954)	再興第39回院展	紙本着色・六曲一隻屏風	176.0×364.0	
16	須田 珙中	雨富貴	昭和30年代		絹本着色・軸装	130.0×41.5	
17	須田 珙中	鯉	昭和30年代		紙本着色・軸装	135.0×31.0	
18	須田 珙中	枇杷に栗鼠	昭和30年代		紙本着色・軸装	130.0×32.0	寄託
19	須田 珙中	暮秋	昭和30年代		紙本着色・軸装	48.0×51.0	
20	渡辺 光徳	畑仕事	昭和26年(1951)		紙本墨画淡彩・軸装	123.0×31.0	
21	巖谷 小波	俳画「若鮎の幾瀬を越ゆる勢かな」	昭和初期		紙本墨画淡彩・軸装	130.0×31.0	
22	角田 馨谷	王 摩詰	大正時代		絹本着色・軸装	194.0×70.0	
23	須田 珙中	神苑	昭和22年(1947)		絹本着色・軸装	48.0×51.0	寄託
24	張堂大龍 他	画帖「同玄帖」	大正時代		紙本着色・法帖		
25		菖蒲文合子	大正時代		陶器・合子		
26		牛若に満月図鐺	江戸時代		長木瓜形 鉄地 金銀象嵌	4.1×58×50mm	
27		草に三日月図鐺	江戸時代		撫長角形 素銅地 金象嵌	4×57.4×45mm	
28		芒と雁図鐺	江戸時代後期		長木瓜形 赤銅魚子地 金象嵌	3.9×62.7×55.4mm	
29		紅葉・桜図鐺 銘法眼一乗	江戸時代後期		長丸形 赤銅地 金銀象嵌	3.5×66×60mm	
30		柳に鶯図鐺	江戸時代後期		撫長角形 鉄地 金銀象嵌	4.6×86.6×82mm	
31		稲穂に雀図鐺	江戸時代後期		丸形 鉄地 金象嵌	4.5×86.8×82.4mm	
32		海辺に燕図鐺 銘奈良珍久作	江戸時代中期		長丸形 山銅地 針石目	6.6×78.9×75.3mm	
33		時雨に蛙・蓮図鐺 銘在信	江戸時代後期		撫丸型 鉄地	3.5×85.5×79.2mm	
34		松竹鶴亀図柄鏡	江戸時代				
35		和歌文字入柄鏡	江戸時代				
36	角田 馨谷	紅梅に長鳴鳥	昭和35年(1960)		紙本着色・二曲一隻屏風	170.0×180.0	寄託
37	角田 馨谷	白梅に軍鶏	昭和35年(1960)		紙本着色・二曲一隻屏風	170.0×180.0	寄託
38	角田 馨谷	白鷺	昭和30年代		絹本着色・額装	183.5×160.0	
39	鳥井 未央	夏(河骨に手長えび)	昭和44年(1969)		絹本彩色・一面	123.0×40.0	
40	斎藤 清	奥の細道須賀川十念寺	昭和40年(1965)		紙本木版・額装	38.0×53.0	風流のはじめ館蔵
41	坂本 勇	乙字ヶ滝	平成15年(2003)		紙本木版・額装	33.0×48.0	
42	王 綉	紫艶芳香	平成14年(2002)		紙本着色・額装	53.0×38.0	
43	徳岡 神泉	牡丹			絹本着色・額装	41.0×51.0	
44	柳沼 曹雲	秋韻	昭和38年(1963)		木彫	50.8×56.8	
45	中島 千波	永泉寺の枝垂桜			リトグラフ		永泉寺蔵



「神苑」須田珙中 絹本着色

「朝霞」松尾敏男 紙本着色



「あさつゆ」角田馨谷 絹本着色

「白鷺」角田馨谷 絹本着色

2023. 4. 25 火 ▶ 6. 4 日

須賀川市立博物館

〒962-0843 福島県須賀川市池上町6 TEL0248(75)3239

## 芸術のなかの「花鳥風月」

四季の自然と生き物が織りなす美・花鳥風月は、いつの時代も、芸術家の創作意欲の源となりました。

本展では、須賀川ゆかりの作家の作品を中心に、様々な方法で表現された花鳥風月の美しさをご覧ください。

角田磐谷「王摩詰」部分



## 花・木・草

### 牡丹 ぼたん

中国原産で、その豪華さから花の王と呼ばれる。別名は「富貴」。古来から多くの作品に描かれてきた。江戸時代の薬草畑がもととなり、今も多くの人が訪れる須賀川牡丹園があることから、須賀川市の花に選ばれている。

### 桜 さくら

現在多く植えられているソメイヨシノは、江戸時代後期以降に開発された品種。古代から和歌によまれる山桜は里山に自生し、葉と花が同時に開くことが特徴。

### 河骨 こうほね

浅い池や沼に生える多年草。白く太い茎が地中にめぐっているためこの名がある。6月から10月にかけて直径5cmほどの黄色い花が咲く。

### 竹 たけ

アジア諸国に分布する。日本では南に多く北には少ない。真っ直ぐで節があり、雅趣のある姿が好まれ、「竹林弹琴」「竹林七賢」など、竹林に文人を配する絵画が古くから描かれている。

### 梅 うめ

百花の魁(さきがけ)として寒風の中薫り高い清楚な花を咲かせることで、中国や日本で愛玩され、古来から無数の詩や絵画に取り上げられている。

## 鳥・動物

### 鷺 さぎ

長い脚とくちばし、頭の二本の羽が特徴で、清らかな姿が美しい。季節に関係なく目に触れるが、水辺での姿が描かれることが多い。中国で「鷺」は「路」と同じ発音をするため、「一路栄華」「一路功名」などのよいイメージを連想させる。

### 雀 すずめ

花鳥画の中で最も早くから描かれた鳥といわれ、竹・梅・稲穂などとよく組み合わせで描かれる。

### 鶏 にわとり

家禽として最も古い歴史を持つ鳥とされ、日本でも神話に登場する。羽の美しさを鑑賞するほか、長い鳴き声を楽しむ品種、戦わせて楽しむ品種がある。

### 雉 きじ

日本固有の鳥。気品のある姿と、金や緑、赤の華麗な色彩が絵画によく取り上げられる。雌雄の仲がよく、家族愛や夫婦愛の象徴としても描かれる。

### 鹿 しか

中国では昔から仙獣とされ、日本でも神の使いとして仙人や七福神等と組み合わせで描かれる。

### 鯉 こい

河魚の王といわれ、滝をのぼって龍になるなど、神話や伝説に多く登場する。

## 風 月 季節・山水・天体

山や岩、川や滝など自然の風景を題材とした絵画「山水画」は、中国で唐時代から北宋時代にかけて大成しました。日本では、江戸時代に大和絵の要素が加わって、平明で装飾的な様式が確立されます。

ありのままの自然を描く「真景図」や「風景画」とは異なり、理想的・普遍的な自然を想像し、再構築して描くものです。

白雲「山水図」

